

●アフターサービスについて



使用中に正常に作動しなくなった時は、まず本文の「故障とお考えになる前に」を参考にしてチェックしてください。「処置」を行っても改善が見られない時は、お買い上げ店、又は当社ユーザーサービス係にお申し付けください。



保証をお受けになる場合
お買い求め頂いた販売店、もしくは当社ユーザーサービス係に、不具合内容を具体的に提示の上、EGS-M1 本体とリモコンをセットにして、保証書、車検証のコピーと共に送ってください。なお、保証範囲につきましては、保証規定をご覧ください。



保証対象外の修理について
保証期間を過ぎた場合や、使用上の不注意による故障等、保証の対象とならない場合の修理については、原則として有償となります。詳しくは、当社ユーザーサービス係までご相談ください。

リモコンエンジンスターター

EGS-M1

取付・取扱説明書

(保証書付)

このたびは、EGS-M1 をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
正しくお使いいただくために、取付・取扱説明書を必ずお読みください。
又、注意事項を十分に理解されるまで取り付け、取り扱いはなさないでください。
尚、この取付・取扱説明書は必要な時いつでもご活用頂けるように大切に保管して下さい。

この取付・取扱説明書では安全上重要な項目に下記のマークを表示しています。

⚠ 危険・・・ 取扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う危険性が高いことを意味します。

⚠ 警告・・・ 取扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを意味します。
又、法律に違反することを意味します。

⚠ 注意・・・ 取扱いを誤った場合、傷害を負う危険が想定されることを意味します。
又、製品を損傷、故障させる恐れがあることを意味します。

⚠ 警告

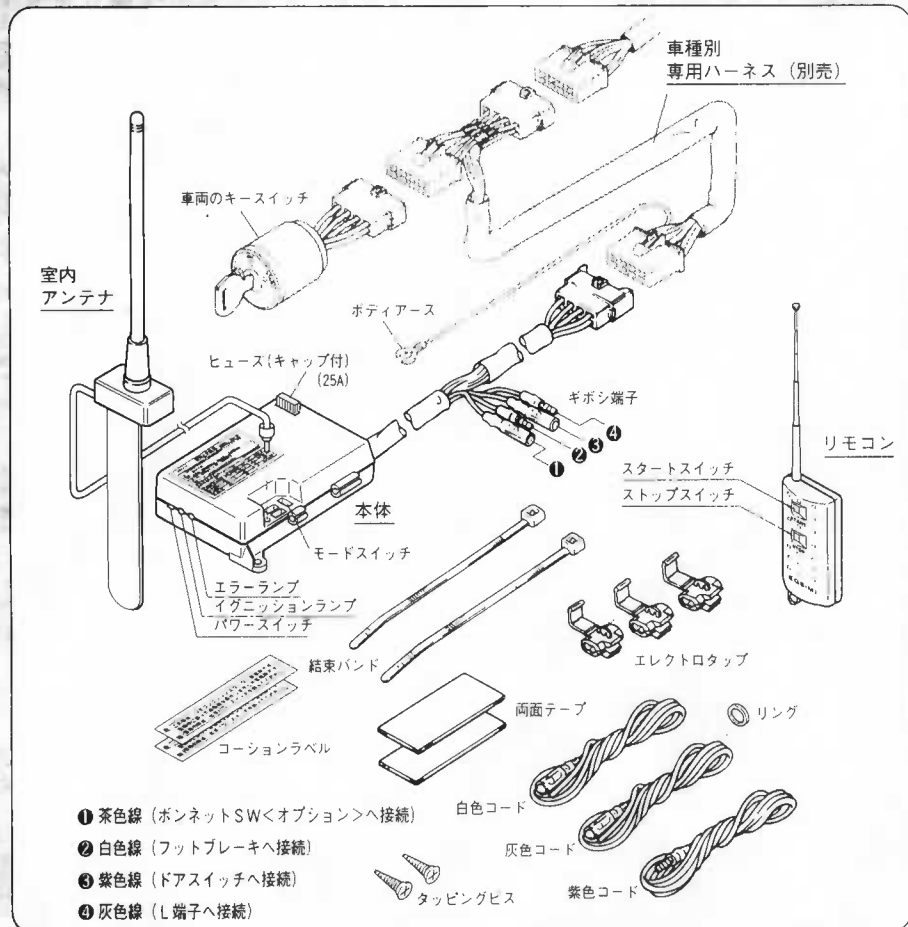
本製品は、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。分解したり改造したりすることは法律で禁じられていますので、絶対になさないでください。

リモコンケースの裏面に貼られている技術基準適合証明ラベルははがさないでください。このラベルがはがれた状態で使用すると電波法違反となります。

目次

取り付け可能な車は.....	3	正しくお使いいただくために.....	15
取り付け手順.....	4	使用上の注意.....	16～17
取り付けの前に.....	5	使用方法.....	18～20
車種別専用ハーネスの取り付け.....	6～7	メンテナンス.....	21
本体にオートマチック車である事を認識させます..	8	故障とお考えになる前に.....	22
動作確認をします.....	9	仕様.....	23
うまく動作しない時は.....	10～11	保証規定.....	23
各種取り付け作業.....	12～13	アフターサービスについて.....	24
ABS装着車にお乗りのお客様へ.....	14	保証書.....	24

パッケージ内容 (作業前にパッケージの内容を必ず確認してください。)

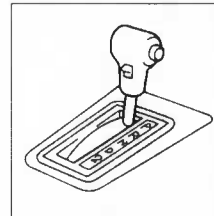


● 取り付け可能な車は・・・

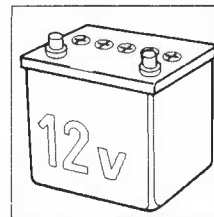
本製品は「適用車種一覧表」に記載されていない車種には取り付けないでください。



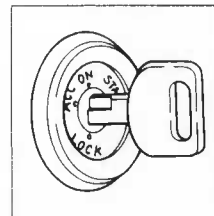
⚠ 危険 ● 国産車にのみ、取り付け可能です。
外国車への取り付けはできません。



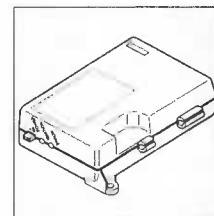
⚠ 警告 ● オートマチック車にのみ、取り付け可能です。
本体のオートマチック車判別機能により、マニュアル車の取り付けはできません。



⚠ 警告 ● 12V車にのみ、取り付け可能です。
24V車への取り付けはできません。

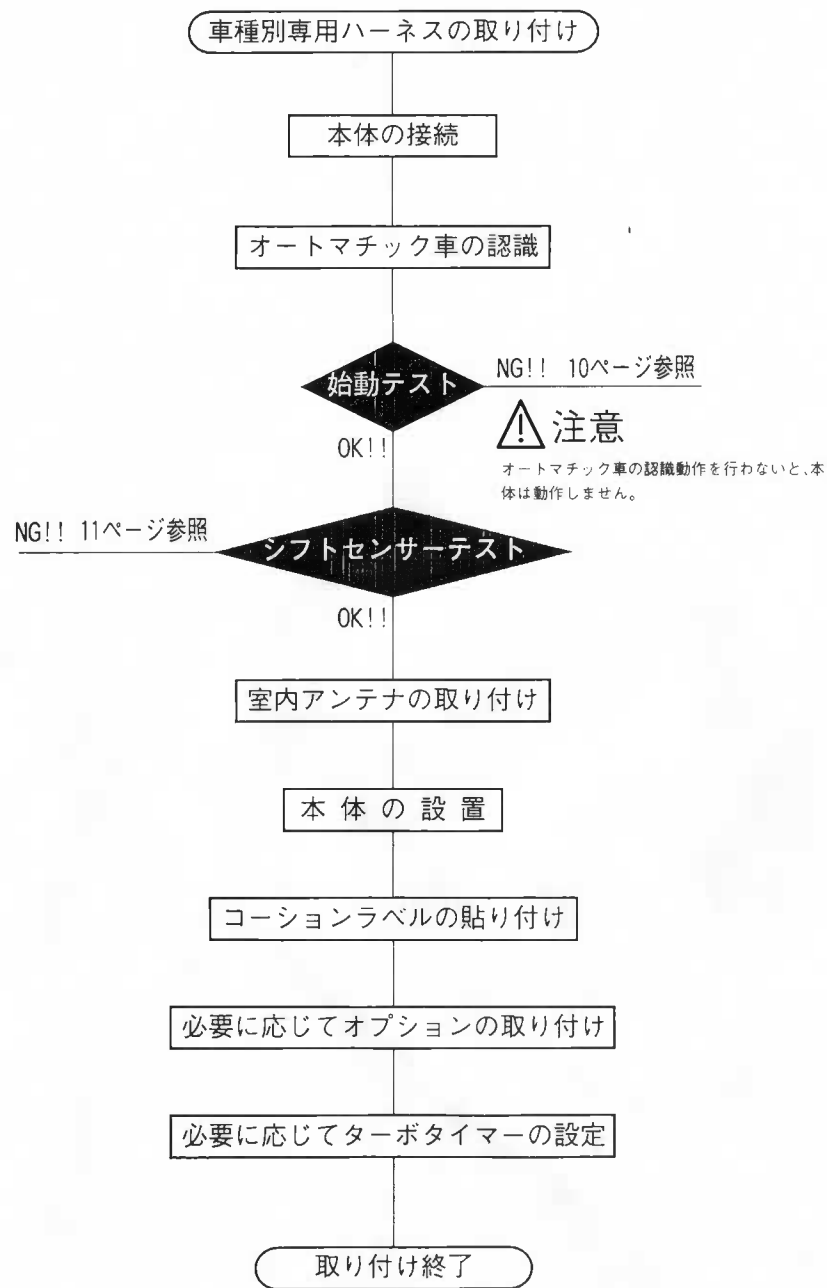


⚠ 注意 ● 電子制御燃料噴射装置搭載車にのみ、取り付け可能です。
電子制御燃料噴射装置搭載車、及び一部のディーゼル車で、イグニッションキーのみでエンジンを始動することができる車にのみ、取り付け可能です。
エンジン始動時にアクセル操作やチョークレバー操作を必要とする車、電子制御キャブレター搭載車への取り付けはできません。

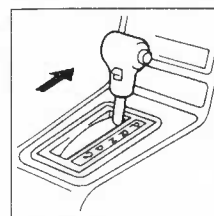


⚠ 注意 ● EGS-M1 単体でのみ、取り付け可能です。
他のエンジンスターター、もしくはターボタイマーが取り付けられている車には取り付けはできません。
併用すると、それぞれが正しく動作しない恐れがあります。又、故障や誤動作の原因となります。

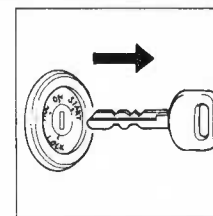
● 取り付け手順



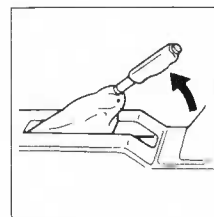
● 取り付けの前に



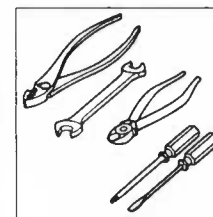
- 警告**
- シフトレバーは、必ずパーキングレンジに入れてください。



- 注意**
- 車のキーは必ず抜いてください。



- 警告**
- パーキングブレーキは確実にかけてください。



- MEMO**
- 取り付け工具について
+ドライバー・プライヤー・ニッパ・スパナなど。
工具は商品には同梱されていないので、別途ご用意ください。

警告

- 他社製ハーネスは使用しないでください。
他のエンジンスターター、もしくはターボタイマー用ハーネスを流用・加工しての取り付けは絶対にしないでください。車両故障、製品故障の恐れがあります。また保証適応対象外になります。

適応車種一覧表をよくご覧になり、車にあった当社製専用ハーネスをご使用ください。

危険

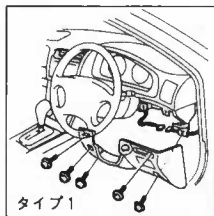
- オプション（別売）について
適応車種一覧表をよくご覧になり、必要に応じてオプション（別売）をご使用ください。
 - ・ボンネットスイッチ
車のボンネットが開いている時に、リモコンでのエンジン始動をできなくする安全装置です。
 - ・日産キーロックアダプター
一部の車種でターボタイマーの動作中、キーが抜けなくなるのを防止します。
 - ・ホンダレジェンド用DPSアダプター
レジェンド（型式KA7/8/9のDPS装着車）のドライビングポジションシステムのチルト/ステアリングのAUTO機能を動作させることができますようにします。
 - ・ターボタイマーストール防止アダプター
一部の車種でキーをOFFにしターボタイマーを作動させる際、インジケータランプが一瞬点灯したり、エンジンがストール（停止）してしまうのを防止します。

● 車種別専用ハーネスの取り付け

ステップ1 キースイッチの配線カプラーを探します。

MEMO キースイッチの配線カプラーは基本的には車種別専用ハーネスのカプラーと同形状なので、それを目安にしてください。

配線カプラーの位置を大別すると次の4タイプになります。



タイプ1

タイプ1

アンダーカバーを外し、キーシリンダーより出ている配線の約20～30cm先にカプラーが位置しているタイプ

MEMO アンダーカバーを取り外す際、車種によってはスピーカーカバー内や、コインポケット等に隠しネジが付いている場合があります。

専用ハーネス例

T001	T002	T005
T006	N022	N025
M065	S071	

タイプ2

ステアリングコラムカバーを外し、キーシリンダーに直接接続されているか、もしくはキーシリンダー直近に位置しているタイプ

MEMO ステアリングコラムカバーを取り外す際、車種によってはステアリングを90度くらい廻さないとネジが外せない場合があります。

専用ハーネス例

T003	T004	N023
L035	M067	D082

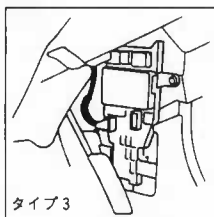
タイプ3

ヒューズBOXやジャンクションブロックに直接接続されているタイプ

MEMO ホンダ車の場合アクセスペダル横のヒューズBOX内に接続されている場合もあります。

専用ハーネス例

T008	H046	H048
H049		



タイプ3

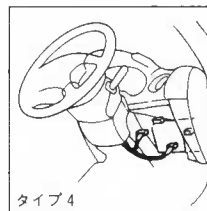
● 車種別専用ハーネスの取り付け

タイプ4

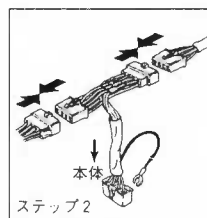
配線カプラーが2箇所に別れているタイプ
それぞれのカプラーの位置が離れているものもあります。

専用ハーネス例

H041	H043	H044
H045	H047	D083
A093	A094	



タイプ4



ステップ2

ステップ2 専用ハーネスを接続します。

発見したキースイッチの配線カプラーをいったん外します。
車種別専用ハーネスを、はずしたカプラーの間に割り込ませます。

! 注意 カプラーの接続は振動等で外れないように、最後まで確実に差し込んでください。



ステップ3

ステップ3 アース線を接続します。

車種別専用ハーネスから出ている、黒色アース線を車体の金属部分に確実に締め付けます。これにより間接的にバッテリーの⊖に接続します。

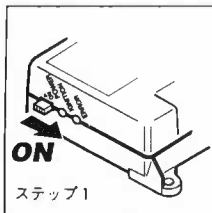
! 注意 塗装されている金属部分や、車の振動等でゆるんでしまう場所に取り付けると、本体がうまく動作しない事があります。

ステップ4 本体を接続します。

本体から出ているカプラーとハーネス先端のカプラーを接続します。

● 本体にオートマチック車である事を認識させます

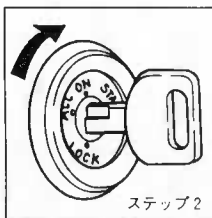
エンジンは始動させないでください。
誤って始動させた場合、ステップ1からやりなおして下さい。



ステップ1 本体のパワースイッチをONにします。

イグニッションランプ（緑）が3回点滅した後、消灯します。
またこの時本体から、ブーブー、ブーブー・・・と断続音が鳴り続けます。

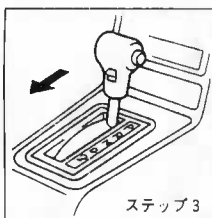
MEMO 点滅しない場合は、アースが確実に取れているか、またハーネスの品番が間違っていないか、再確認してください。



ステップ2 キーをさし込み、ONの位置にします。

この時、本体からでる断続音が、プブッ プブッ・・・の2連音へと変化します。

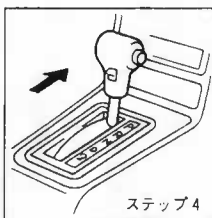
MEMO この時、エンジンは始動させないでください。



ステップ3 シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かします。

本体からでる断続音が、プブブッ プブブッ・・・3連音へと変化します。

MEMO シフト操作は、ゆっくり行ってください。
断続音に変化することを必ず確認してください。

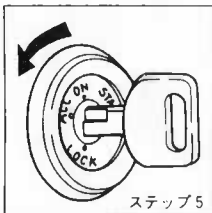


ステップ4 シフトレバーをRレンジからPレンジへと戻します。

この時、本体からプブブッ プーと音が鳴り、オートマチック車の認識が終わった事を知らせて鳴り止みます。

ステップ5 キーをOFFの位置に戻し抜き取ります。

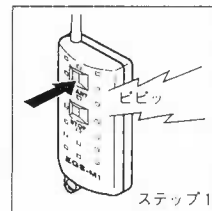
MEMO 車種によってはLOCKの位置になります。



OK! 以上でオートマチック車の認識は終了です。

● 動作確認をします

シフトレバーは、必ずPレンジにしてください。



ステップ1 リモコンのスタートスイッチを押します。

リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、スタートスイッチを音（ビビッ）が鳴るまで押し続けます。

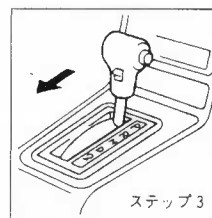
⚠ 危険 周囲の安全を確認の上、サイドブレーキをしっかりと引いてください。重大事故につながる恐れがあります。

ステップ2 車のエンジンが始動します。

本体が信号を受信すると、まず本体にあるイグニッションランプ（緑）、及び車のメーターパネルが点灯にします。そして数秒後にスターターが回りエンジンが始動します。

一度で始動しない場合は、その後2回のリトライ（再始動）動作を行います。

MEMO うまく始動しない場合は10ページを参照してください。

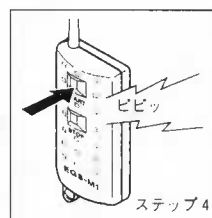


ステップ3 シフトセンサーの確認をします。

リモコンでエンジンが始動した後、キーをささずにフットブレーキをしっかりと踏みながら、シフトレバーをゆっくりとPレンジからRレンジへと動かします。

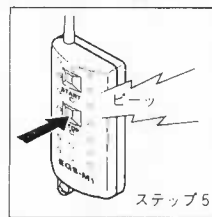
この時エンジンが止まる事を確認します。

MEMO 車種によっては、キーをささないでシフトレバーが動かせないものもあります。その場合は、キーをACCの位置まで廻して確認してください。



ステップ4 シフトをPレンジに戻しリモコンで、再度エンジンを始動します。

MEMO キーをACCの位置まで廻して確認した場合、必ずOFFに戻してください。



ステップ5 リモコンのストップスイッチを押しエンジンが停止する事を確認します。

リモコンのストップスイッチを音（ビーッ）が鳴るまで押し続けます。本体が信号を受信するとエンジンは停止します。

OK! 以上で動作確認は終了です。

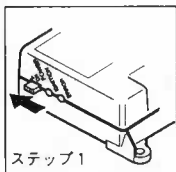
エンジンがうまく始動しない時



?? エンジンは始動しても数秒で停止してしまい、又自動的に再始動動作（リトライ）が行われても始動しない場合。

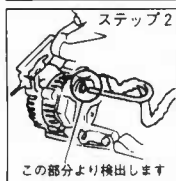


エンジンの始動検出がうまく行われていないと考えられます。こういった場合、次のL端子配線を行ってください。



ステップ1

ステップ1 一旦本体のパワースイッチを切ってください。



ステップ2

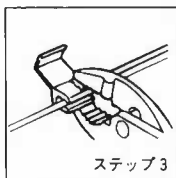
この部分より検出します

ステップ2 車両のオルタネーターから出ているL端子線を探します。

L端子線とは、イグニッションONの位置でエンジンが停止している時、0～3V、エンジンが駆動している時12～14Vになる線です。（テスターを必ずご使用ください）



MEMO 車両によって室内からL端子線をとれる車もあります。詳しくは当社ユーザーサービス係までお問い合わせください。

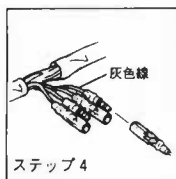


ステップ3

ステップ3 付属の灰色コードを接続します。

付属の灰色コードのギボシ端子の付いていない方を、オルタネーターから出ているL端子線に付属のエレクトロタップで接続します。

⚠ 注意 接触不良が起きないように確実に取り付けてください。

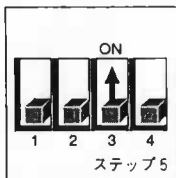


ステップ4

ステップ4 灰色コードのギボシ端子を本体に接続します。

灰色コードをエンジンルームからグロメット等を利用して車室内に引き込み、EGS-M1（本体）の灰色コードに接続します。

⚠ 注意 灰色コードがボディの金属部分に触れると、ショートを起こし車両故障の原因となる恐れがあります。



ステップ5

ステップ5 モードスイッチの3番をONにします。

スイッチが小さいためボールペンの先端などで行ってください。



以上でL端子配線は終了です。
パワースイッチをONにしてリモコンで問題なくエンジン始動出来る事を確認してください。

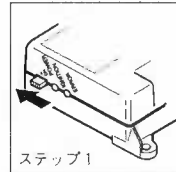
シフトセンサーがうまく働かない時



?? リモコンでエンジン始動後、シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かしてもエンジンが停止しない場合。

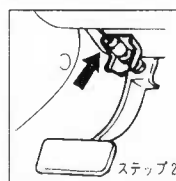


オートマチックシフトの検出がうまく行われていない事が考えられます。こういった場合は次のフットブレーキ配線を行ってください。



ステップ1

ステップ1 一旦本体のパワースイッチをOFFにします。



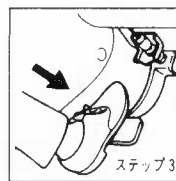
ステップ2

ステップ2 車両のフットブレーキスイッチを探します。

フットブレーキスイッチはブレーキペダルの根元付近にあります。



MEMO フットブレーキとは、フット式パーキングブレーキの事ではありません。



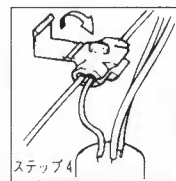
ステップ3

ステップ3 ブレーキペダルを踏んだ時に12Vになる線を見つけます。

フットブレーキスイッチから出ている線の内、ブレーキペダルを踏まない時は0V、踏んだ時に12Vとなる線を見つけてください。（テスターを必ずご使用ください）



MEMO 車のリヤストップランプを点灯させる為の線です。

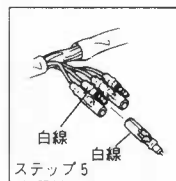


ステップ4

ステップ4 付属の白色コードを接続します。

付属の白色コードのギボシ端子の付いていない方を、ステップ3で見つけた線に付属のエレクトロタップで接続します。

⚠ 注意 接触不良が起きないように確実に取り付けてください。



ステップ5

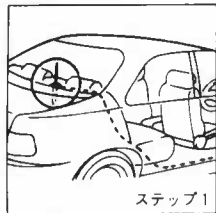
ステップ5 白色コードのギボシ端子を本体の白色コードに接続します。



以上でフットブレーキ検出への変更は終了です。
パワースイッチをONにしてリモコンでエンジンを始動させ、フットブレーキを踏んだ時にエンジンが停止する事を確認してください。

● 各種取り付け作業

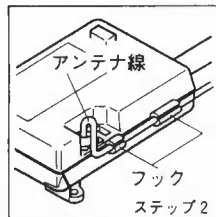
室内アンテナの取り付け



ステップ1 室内アンテナを設置します。

車室内の運転に支障のない場所に確実に設置してください。
リヤシートとリヤトレイの隙間等に金属プレート部を差し込んで取り付けます。

MEMO 室内アンテナの金属プレートは、切断しないでください。



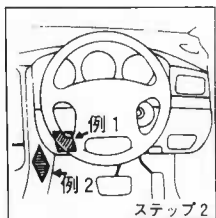
ステップ2 本体のアンテナジャックにアンテナ線を差し込みます。

アンテナジャックに差した後、抜け防止の為フックにアンテナ線を固定してください。

本体の取り付け

ステップ1 配線したコードを整理します。

これまでに配線した、コード、アンテナ線等をビニールテープや付属の結束バンド等で確実に固定してください。



ステップ2 本体を設置します。

本体を運転操作の邪魔にならない場所に、付属の両面テープ等を使用して設置します。

⚠ 注意 本体は直射日光の当たる場所、エアコンの吹き出し口等、高温になる場所には固定しないでください。

ステップ3 外したアンダーカバー等を元に戻します。

コーションラベルの貼り付け

エンジンルーム内の目立つ場所に貼ってください。
貼り付ける際には汚れや油分等をきれいに除去してください。

⚠ 危険 ボンネットを開けて作業をしている際に、誤って始動操作が行われると大変危険です。必ず目立つ場所に貼ってください。



以上で取り付けは終了です。

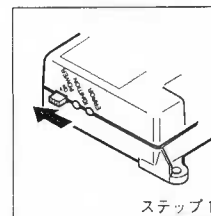
● 各種取り付け作業

ボンネットスイッチを取り付ける場合

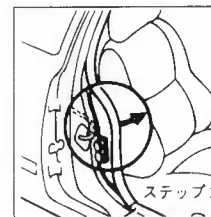
ボンネットスイッチ（別売）の取り付けを行うことにより、ボンネットが開いている時のリモコンでのエンジン始動ができなくなり、作業中の安全を確保できます。できるだけボンネットスイッチの取り付けを行ってください。
取り付けに関しては、ボンネットスイッチに添付の取付説明書をよくお読みください。

運転席側ドアスイッチ配線を行う場合

ドアスイッチへの配線を行うことにより、リモコンでのアイドリング中に、ドアを開けるとエンジンを停止させる事ができます。

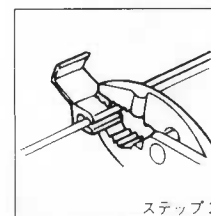


ステップ1 一旦本体のパワースイッチを切ってください。



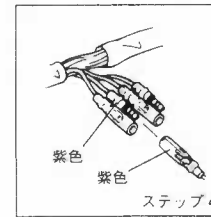
ステップ2 ドアスイッチ線を探します。

ドアを開けた時は0V、閉めた時に12Vとなる線です。（テスターを必ずご使用ください）



ステップ3 付属の紫色コードを接続します。

付属の紫色コードのギボシ端子の付いていない方を、ステップ1で見つけた線に付属のエレクトロタップで接続します。



ステップ4 紫色コードのギボシ端子を本体の紫色コードに接続します。

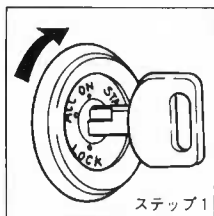


以上でドアスイッチ配線は終了です。
パワースイッチをONにしてリモコンでエンジンを始動させ、ドアを開けた時にエンジンが停止する事を確認してください。

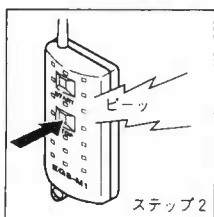
● ABS装着車にお乗りのお客様へ

リモコン始動時にABS警告灯が点灯する場合はキー始動学習を行ってください。

キー始動学習機能の設定方法



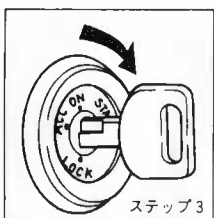
ステップ1 キーをONの位置にします。



ステップ2 上記操作後10秒以内にリモコンのストップスイッチを押します。

本体から断続音ブプッ ブプッ・・・(2連音)が鳴ります。

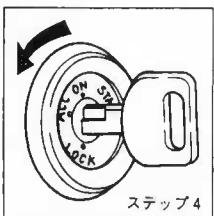
注意 10秒以内に操作が完了しない場合は設定できません。キーをOFFに戻しステップ1からやり直してください。



ステップ3 上記操作後30秒以内にキー操作でエンジンを始動します。

本体からブプッ ブーと音が鳴りキー始動学習機能が設定されたことを知らせ、鳴り止みます。

注意 30秒以内に操作が完了しない場合は設定できません。(本体から”ピーピー”という警告音がします) キーをOFFに戻しステップ1からやり直してください。



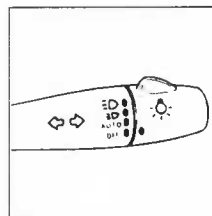
ステップ4 キーをOFFの位置にします。



以上でキー始動学習機能の設定は終了です。

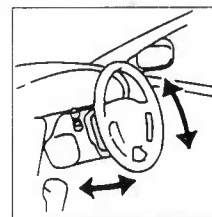
● 正しくお使いいただくために

オートライト装着車について



オートライト装着車に取り付けの場合
オート状態のまま夜間にリモコンにてエンジンを始動すると、車のライトが点灯してしまい、リモコン停止や自動停止後に消灯しません。
そのためバッテリー上がりの原因となりますので、ライトスイッチはOFFの状態でご使用ください。

オートチルト装着車について

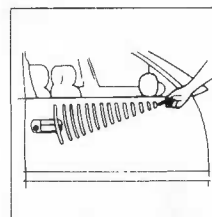


オートチルトおよびマイコンプリセットステアリング装着車に取り付けの場合、リモコンでのアイドリング中に、車のキーを差し込んでもステアリング機能は働きません。
一旦エンジンを止めて、再度キーを使ってエンジン始動を行ってください。



MEMO ドアスイッチ配線を行うことで、ドアを開けると同時にエンジンを停止させることもできます。

リモコンドアロック装着車について



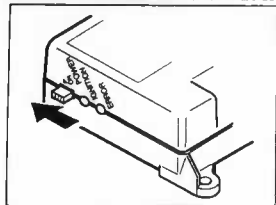
リモコンドアロックおよびキーレスエントリー装着車では、エンジン駆動中(リモコンでのエンジン駆動中も含む)リモコンによるドアロック・アンロックの操作が出来なくなる車種がありますので、一旦エンジンを止めるか、キーでドアを開けてください。

始動距離について

始動距離は、周囲の環境、室内アンテナの設置状態、リモコンの扱い方などによって変化します。一般に建物内や周囲に鉄筋コンクリートの建築物があったり、高圧送電線や大出力の無線等のノイズ発生源があったりすると始動距離は短くなります。

使用上の注意

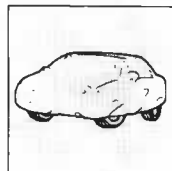
⚠ 危険



下記の場合には、パワースイッチを切ってください。

事故の恐れがあります。

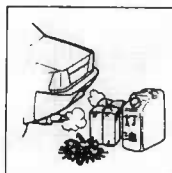
- 整備、車検等で車を預ける場合。
- 当製品の取り扱い方を知らない方が運転する場合。



車にボディカバー等を掛けたままで使用しないでください。火災の恐れがあります。



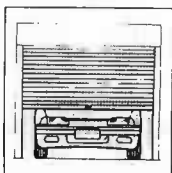
お子様を車内に乗せたままで絶対に使用しないでください。事故の恐れがあります。



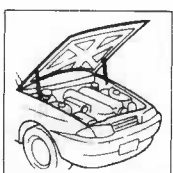
リモコンでエンジンを始動する時は、車の近くに燃えやすい物がないことを確認してください。火災の恐れがあります。



リモコンは、お子様の手の届く所には、置かないでください。事故の恐れがあります。

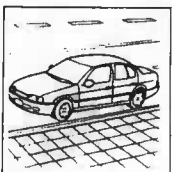


密閉されたガレージ内では使用しないでください。排気ガスが充満して危険です。

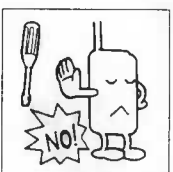


ボンネットを開ける時は本体のパワースイッチを切ってください。安全のため別売のボンネットスイッチの取り付けをお勧めします。事故の恐れがあります。

⚠ 警告



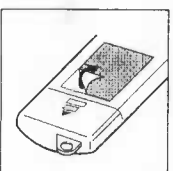
公道上では使用しないでください。必ず駐車場、又は私有地内で使用してください。公道上での使用は違法となります。



この製品は特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けております。分解・改造することは法律で禁じられていますので絶対に行わないでください。



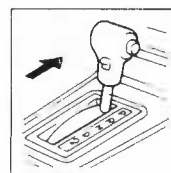
リモコン本体が汚れた場合は、薄めた中性洗剤をしみ込ませた布をよくしぼってからふき、乾いた布でもう一度ふいてください。ベンジン、シンナー等は絶対に使用しないでください。変形、変色や事故の原因となります。



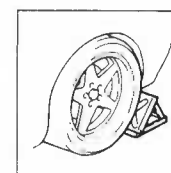
ラベルを剥がしたり、ラベルの無いものを使用することは法律で禁じられていますので絶対に行わないでください。

使用上の注意

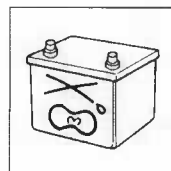
⚠ 注意



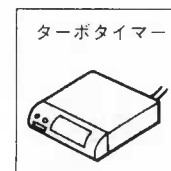
シフトレバーは必ずPレンジに入れて使用してください。Nレンジでは使用しないでください。パーキングブレーキは、必ずかけてください。



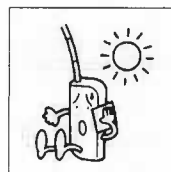
斜面で使用される場合は、必ず輪止めをしてください。



バッテリーの弱っている車や改造車では、正常にエンジン始動できない場合があります。



他のエンジンスターターやターボタイマーとの併用は、絶対に行わないでください。故障や誤動作の原因となります。



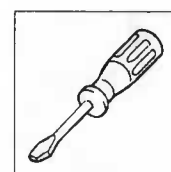
リモコンは、高温になる場所には放置しないでください。変形、変色や故障の原因となります。



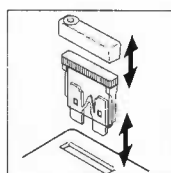
リモコン、及び本体は水に濡らさないでください。故障の原因となります。



リモコンは落としたり、硬い物にぶつけないでください。故障の原因となります。

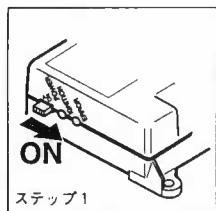


本体の内部に異物を入れないでください。故障の原因となります。又、分解、改造をしたものについては保証できません。



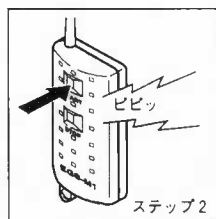
ヒューズ切れの前後は高温となりますので、交換には注意してください。又、交換作業等でのヒューズキャップつけ忘れや、取り外したままの使用は危険ですので必ずキャップがついている事を確認してください。尚、一部車種については動作中、ヒューズ周辺の温度が上がりますが異常ではありません。

リモコンでエンジン始動



ステップ1 本体のパワースイッチをONにします。
イグニッションランプ(緑)が3回点滅します。同時に本体からブッブッ (3回) と音が鳴ります。

⚠ 注意 降車時に、下記の事を確認してください。
1. パーキングブレーキを確実にかける。
2. シフトレバーはPレンジに入れる。
3. 必要に応じてエアコン (ヒーター) をセットする。
4. キーを抜く。



ステップ2 リモコンでエンジンを始動します。
リモコンのロッドアンテナを、最後まで引きだして、スタートスイッチを音(ビビッ)が鳴るまで押し続けます。数秒後、スターターが回りエンジンが始動します。

MEMO リモコンによるエンジン駆動中は、本体から警告音(ブッ)が数秒間隔で鳴り続け、使用者にキー以外でのエンジン始動を知らせます。

ステップ3 走行します。
車のキーを差し込み、ONの位置まで回してください。あとは通常どおり走行できます。
尚、ドアスイッチへの配線を行っている場合、ドアをあけるとエンジンは停止しますので、キーにて再度エンジン始動してください。

⚠ 注意 キーを回す際に、誤ってSTART (STT)の位置まで回すと、スターターを傷めます。

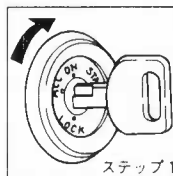
リモコンでエンジン停止

☞ リモコン始動後に走行しない場合は、リモコンのストップスイッチを音(ピーッ)が鳴るまで押し続ける事で、ただちにエンジンを停止させる事ができます。この時イグニッションは消灯します。

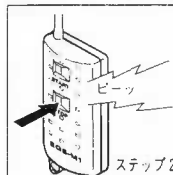
タイマーで自動停止

☞ 始動後約20分でエンジンは自動停止します。

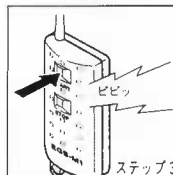
ターボタイマーを設定するには



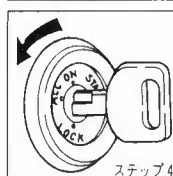
ステップ1 キーをONの位置にします。



ステップ2 10秒以内にリモコンのストップスイッチを押します。
本体からブッ ブッ・・・(2連音)と断続音が鳴り続けます。



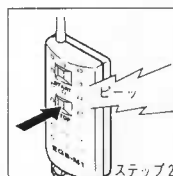
ステップ3 30秒以内にリモコンのスタートスイッチを押します。
本体からブブブブーという音がして、ターボタイマーが設定されたことを知らせ、鳴り止みます。
リモコンのストップスイッチを押してから30秒経過してしまった場合は、本体からピーピーという警告音がして、その後の操作が無効になります。
ステップ2又はステップ3まで時間内に設定ができなかった場合は、キーをOFFに戻しステップ1からやり直してください。



ステップ4 キーをOFFの位置にします。

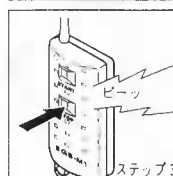
OK 以上でターボタイマーの設定は終了です。

ターボタイマーを解除するには



ステップ1 キーをONの位置にします。

ステップ2 10秒以内にリモコンのストップスイッチを押します。
本体からブッ ブッ・・・(2連音)と断続音が鳴り続けます。




ステップ3 30秒以内にリモコンのストップスイッチを押します。
本体からブブブブーという音がして、ターボタイマーの設定が解除されOFFた事を知らせ、鳴り止みます。
リモコンのストップスイッチを押してから30秒経過してしまった場合は、本体からピーピーという警告音がして、その後の操作が無効になります。
ステップ2又はステップ3まで時間内に設定ができなかった場合は、キーをOFFに戻しステップ1からやり直してください。

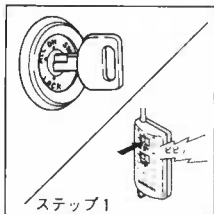
ステップ4 キーをOFFの位置にします。

OK 以上でターボタイマーの解除は終了です。

● 使用方法

ターボタイマーの使用方法

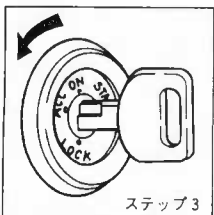
 EGS-M1のターボタイマー機能は、フルオート方式を採用しています。アフターアイドルリングの時間は、車の走行状況にあわせて自動的に設定されます。



ステップ1 キー、又はリモコンでエンジンを始動させます。


ステップ2 走行します。

少なくとも30秒間は走行しなすと、ターボタイマーは、働きません。




ステップ3 走行終了後、キーをOFFの位置にします。


本体からブツブツというカウントダウン音がして、ターボタイマーが作動を開始します。

 **警告** 必ず安全な状態で車を駐車してください。

リモコンでターボタイマー停止


 ターボタイマー作動中にリモコンのストップスイッチを押すことによりエンジンを停止させる事ができます。

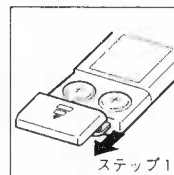
スリープ機能について

 車を使用しない状態が15日間以上続くと、バッテリーの消耗を抑えるスリープ機能がはたらきます。スリープ機能がはたらくと、リモコンによるエンジン始動はできません。スリープ機能を解除するときは、本体のパワースイッチを一旦切って入れなおすか、キーを使ってエンジンを始動させてください。

● メンテナンス

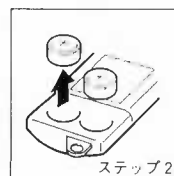
電池の交換方法

 本製品は新品の電池で約10000回以上使用できるように設計されております。使用中、受信距離が短くなってきたら電池を交換してください。(使用電池:酸化銀電池SR44×2個)
*使用温度によっては若干少なくなります。




ステップ1 電池ブタをはずします。

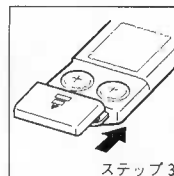
電池ブタを押しながら矢印の方向にスライドさせてください。



ステップ2 電池を交換します。

電池の+、-の向きに注意して交換してください。


 **注意** 電池を交換の際は、2個とも新品の電池に交換してください。




ステップ3 電池ブタを閉じます。

ステップ4 交換後、送信テストを行ってください。

本体の電源を切る時は

 車を車検整備に出す時や、旅行等により長期間使用しない場合は安全の為、本体のパワースイッチを切ってください。
尚、EGS-M1はメモリー機能を採用しておりますので。次回お使いになる際に再度オートマチック車の判定や、ターボタイマーの設定等をしなくても、パワースイッチをONにするだけでスイッチを切る前と同じ状態で使用ができます。

 専用ハーネスを外したり、整備の際に車のバッテリーを交換した場合は、再度オートマチック車の認識からやり直す必要があります。

● 故障とお考えになる前に

このような時	チェックしてください	処置
リモコンのスタートスイッチを押しても音が鳴らない	○スイッチを押す時間が短くありませんか？ ○リモコンの電池は消耗していませんか？	→0.5秒以上スイッチを押してください →電池を新品に交換してください
リモコンのスタートスイッチを押してもまったく作動しない	○音(ビープ)がするまでスタートスイッチを押していますか？ ○車のキーがONになっていませんか？ ○リモコンのアンテナを伸ばしていますか？ ○室内アンテナのアンテナプラグが本体から外れていませんか？ ○リモコンの電池は消耗していませんか？ ○車両のバッテリー端子を外したことがありますか？ ○15日以上エンジンの始動を行わない状態でしたか？ ○車のバッテリーは弱っていませんか？	→音(ビープ)がするまで押してください →キーをOFFにしてください →アンテナを伸ばしてください →アンテナプラグを差し込んでください →電池を新品に交換してください →オートマチック車の認識を行ってください →スリープモードになっています →本体のパワースイッチを一且切って入れ直すか、キー操作でエンジンを始動させてください →車のバッテリーを点検してください
リモコンのスタートスイッチを押すとメーターパネルは点灯するが始動しない	○車のシフトレバーがPレンジに入っていますか？ ○車のバッテリーは弱っていませんか？	→シフトレバーをPレンジに入れてください →車のバッテリーを点検してください
再始動動作を行うが、エンジンは始動しない	○オルタネーター(充電機)の必要な車種ではありませんか？ ○車のバッテリーは弱っていませんか？	→オルタネーター(充電機)の配線をしてください →車のバッテリーを点検してください
本体の電源が入らない	○本体のヒューズが切れていませんか？ ○専用ハーネスのカプラーが外れていませんか？ ○専用ハーネスの黒線(アース線)が外れていませんか？	→ヒューズを交換してください →カプラーを確実に差し込んでください →黒線(アース線)を確実に接続してください
本体のエラーランプが点滅してリモコン始動できない	○ドアが開いていませんか？(運転席のドアスイッチへの配線を行った場合) ○ボンネットが開いていませんか？(別売ボンネットスイッチの配線を行った場合) ○ドアスイッチへの配線(任意)が間違っていますか？ ○フットブレーキへの配線(必要時)が間違っていますか？	→ドアを開めてください →ボンネットを開めてください →正しく配線してください →正しく配線してください
始動距離が短くなった	○リモコンの電池は消耗していませんか？ ○リモコンのアンテナに体の一部が触れていませんか？ ○リモコンのアンテナを伸ばしていますか？ ○室内アンテナのポールがゆるんでいませんか？ ○室内アンテナのアンテナプラグが本体から外れていませんか？ ○周囲の環境は変化していませんか？	→電池を新品に交換してください →送信の際はアンテナに触れないようにしてください →アンテナを伸ばしてください →ポールをしっかり和締めしてください →アンテナプラグを差し込んでください →【始動距離について】を参照してください
ターボタイマーが作動しない	○ターボタイマーの設定を行っていますか？ ○30秒以上走行しましたか？ ○フットブレーキを踏んだままキーをOFFにしていますか？(フットブレーキへの配線を行った場合) ○車のシフトレバーがPレンジに入っていますか？ ○ボンネットが開いていませんか？(別売ボンネットスイッチの配線を行った場合)	→ターボタイマーの設定をしてください →30秒以上走行してください →フットブレーキを踏まずにキーをOFFにしてください →シフトレバーをPレンジに入れてください →ボンネットを開めてください
リモコンのスタートスイッチを押すと本体のイグニッションランプとエラーランプが交互に点滅し、警告音(ビービー)が鳴る	○専用ハーネスの品番は正しいですか？	→ハーネス表を再度確認してください 車の車種名・年式・型式をハーネス表に照合後、品番が正しい場合はユーザーサービス係までお問い合わせください

通常使用時のブザー音一覧表

(オートマチック車認識・ターボタイマー設定・キー始動学習を除く)

ブザー音	作動状態
ブブブブ (3回)	本体の電源が入った場合 (同時にイグニッションランプも3回点滅)
ブブ ブブ...	リモコンでエンジン駆動中 リモコン始動直後から5秒間隔で鳴り始め、残り時間に連動して徐々に短くなります 自動停止直前(1分前)は連続音になります。
ブブ ブブ...	ターボタイマーでエンジン駆動中 ターボタイマー作動直後から1秒間隔で鳴り始め、残り時間に連動して徐々に短くなります、自動停止直前(1秒前)は連続音になります。
ブブブ (3連音)	スリープから復帰した場合
ビービー (2回)	電波を受信しても始動しない場合、又は端子配線が正しくない場合
ビービービー (3回)	始動したエンジンがすぐに停止してしまう場合
ビー ビー...	異常操作や車輛のコンディション変化等で異常を検出した場合、パワースイッチを切り、本ユーザーサービス係にお問い合わせください。(鳴り続ける)

● 仕様

リモコン

■型式名	EGST-02	■送信確認方法	ブザー
■技術基準	RCR標準規格 テレコントロール用 無線設備適合	■送信時間	3秒以内
■送信周波数	426MHz帯の10波のうち1波使用	■送信休止時間	2秒以上
■通信方式	単方向通信方式	■送信アンテナ	内蔵ロッドアンテナ
■送信出力	1mW以下	■制御コード	アドレスコード32ビット/ コントロールコード8ビット
■電波方式	MSK変調 1200bps	■動作温度範囲	-20℃～+60℃
■呼出名称	送信時自動送出	■定格電圧	DC3V
■周波数安定度	±4ppm以下	■使用電池	酸化銀電池SR44×2個
■周波数偏移	±2.5kHz	■電池寿命	電池交換なしで10000回以上送信可能
■スイッチ	エンジンスイッチ (スタート/ストップ)	■外観寸法(mm)	65(H)×29(W)×12(D)(突起部除く)
■重量	20g (電池含む)		

本体

■型式名	ES-2R	■消費電力	通常待機時平均10mA以下、 スリープモード時 500μA
■受信周波数	426MHz帯の10波のうち1波使用	■始動検出	専用ハーネス(自動)、 オルタネーターL端子(選択)
■受信感度	-9dbμV以下	■安全対策	パーキングポジション(自動)、 フットブレーキ(選択)、 ドア開放(任意)、ボンネット開放(任意)
■周波数安定度	±4ppm以下	■ヒューズ	自動車用ブレードヒューズ25A
■アンテナ	1/4室内アンテナ	■タイマー	20分後自動停止
■動作温度範囲	-20℃～+70℃	■重量	292g
■復調コード	アドレスコード32ビット/ コントロールコード8ビット	■外観寸法(mm)	30(H)×114(W)×80(D)(突起部除く)
■電源電圧	最低動作電圧DC8.5V 最高動作電圧DC16V		
■パワー系制御電流	突入電流80A 最大電流25A		

仕様及び外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

《保証規定》

本製品は、厳重な品質管理のもとに製造され、検査に合格し、出荷されておりますが、お客様の正常な状態でのご使用中、万一故障が発生した場合には、本保証書に記載の内容に基づき、無償修理させていただきます。

- 修理は、お買い求め頂いた販売店に、本保証書および不具合内容等を記入したメモ等を添えてご依頼願います。また、修理の際は必ずリモコンと本体をセットでお渡しいください。(リモコンのみでは修理できません)
 - この保証書は日本国内に於いてのみ有効です。This warranty is valid in Japan.
 - 本保証書は再発行致しませんので、大切に保管してください。
- なお、下記に該当する場合は、保証期間内であっても保証の対象とはなりませんのでご注意ください。
- お客様の故意または過失による故障と認められた場合。
 - 製品を分解したり改造したりした形跡が認められた場合。
 - 火災、天災、事故、その他紛争等による損傷。
 - 当社専用ハーネスをお使いになっていない場合。
 - 取り扱い説明書中の注意事項を守られなかったことにより発生した故障、損害等。
 - 保証書の添付がないか、あるいは記載事項に不足がある場合。
- 消耗部品(電池、アンテナ等)は保証対象外です。
 - 修理によって生じた交換部品は原則としてお返しいたしません。
 - 本製品の製造中止5年以降は使用電子部品の製造中止により修理不能になる場合がありますので予めご了承ください。

※保証期間経過後の修理については、当社ユーザーサービス係までご相談ください。
修理によって機能の維持が可能な場合は、お客様のご要望により有償修理致します。

株式会社 ミツバ